

PRESIDENT'S MESSAGE

RI会長メッセージ

RI 指定記事

私から皆さんへの挑戦

平和は、偶然に訪れるものではありません。平和は、意識的に追求され、戦略的に築かれるもので、私たちのあらゆる活動の中に意図的に織り込んでいくべきことです。これが、今年度、私がロータリーに向けて提起する挑戦です。

ロータリーは長年、平和を重点分野の一つとして位置付けてきました。しかし私は、平和を特定のプロジェクトとして取り組むだけにとどめてはならないと考えています。平和とは、私たちが計画を立てるとき、奉仕するとき、そして「どのようなインパクトを未来に残したいのか」と問いかけるとき、常に通して見るべき「レンズ」なのです。

経済平和研究所は、「積極的平和」を支える8つの柱を提唱しています。それは、「機能する政府」、「健全なビジネス環境」、「資源の公平な分配」、「他者の権利の尊重」、「近隣諸国との良好な関係」、「情報の自由な流通」、「高水準の人的資本」、そして「低い汚職水準」です。これらの柱は、持続可能な平和を実現するための必要条件です。これらを考察すれば、ロータリーに大きな可能性があることに気がきます。なぜなら、私たちの活動が、自動的に平和につながるわけではないからです。意図を持って取り組むことで、平和を築く力になるのです。

「意図的」であること。これがキーワードです。

水プロジェクトだけで平和が築かれるわけではありません。しかし、「積極的平和の8つの柱」を念頭に置き、「資源への公平なアクセスが地域社会の信頼をどのように高めるのか」を考えながら設計されたプロジェクトは、平和の基盤づくりにつながります。職業研修プログラムも、それだけで和解を保証するものではありません。しかし、分断された地域社会の人々が、共通の経済的機会を通じて協力できるよう、意図的に設計されたプログラムであれば、和解への第一歩となります。変化をもたらすのは、プロジェクトそのものではありません。そこに込められた「意図」

なのです。

コロンビアにおけるロータリーの「平和と繁栄への道」プログラムは、その実践例です。長年にわたる武力紛争や避難生活の影響を受けてきた地域社会で、経済的自立支援と紛争解決研修、そして地域主導の和解活動を組み合わせています。そこでは、平和は単なる副次的な成果ではありません。プログラムを設計する段階から、その中心に据えられていました。これこそ、私が皆さんに実践してほしい基準なのです。

次のプロジェクトを計画するとき、重点分野が何であれ、「この取り組みは、平和を実現するための条件をどのように生み出すか」と問うてみてください。積極的平和の柱を参考にし、自分たちの活動との接点を見つけてください。そして、そのつながりを意図的なものにしてください。発見したことは、クラブや地区、そして地域社会と共有してください。平和を「到達点」ではなく「実践」として語り合うようになれば、私たちのあらゆる行動が、より自然に平和につながるものとなるでしょう。

これまでとは違う活動を始めるということではありません。私たちが行っている活動を、より大きな気付きと目的意識、そして私たちが築こうとしている世界への明確なビジョンを持って進めていくということです。ロータリーの全てのプロジェクトには、大きな可能性が秘められています。私たちの使命は、その可能性を偶然に任せるのではなく、自らの意思によって引き出していくことなのです。

オンラインカ・ハキーム・ババロラ
2026-27年度 国際ロータリー (RI) 会長